

会 議 概 要

会議の名称	令和3年度第3回社会教育委員会会議
開催日時	令和3年12月8日(水) 15時10分 開会 17時10分 閉会
開催場所	湧別町文化センター さざ波 中会議室
出席者名	深谷委員長、山本副委員長、梅田委員、平野委員、武藤委員、杉原委員、村田委員、毛利委員、工藤委員、三橋委員、菅委員 11名 教委～阿部教育長、坂本課長、中島参事、藤本主幹、渡辺主査、土佐主査、北村主査、鈴木主事
欠席者名	安瀬委員、渡辺委員、鈴木委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 教育長あいさつ 4. 議 事 議案第1号 令和4年度社会教育事業について 議案第2号 第3次社会教育中期計画の策定について 5. その他 6. 委員長あいさつ・閉会
会議資料	令和3年度第3回社会教育委員会議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記) <input type="checkbox"/> 無
備考	

てん末書

1 日 時

令和3年12月8日(水) 15時10分～17時10分

2 会 場

湧別町文化センターさざ波 中会議室

3 会議及び用務

第3回社会教育委員会議

4 出席者

社会教育委員～深谷、山本、梅田、平野、武藤、杉原、村田、毛利、工藤、三橋、菅 各委員 11名

欠席～安瀬、渡辺、鈴木 各委員 3名

教委～阿部教育長、坂本課長、中島参事、藤本主幹、渡辺主査

土佐主査、北村主査、鈴木主事

5 結果要旨

1. 開 会

2. 深谷委員長あいさつ・教育長あいさつ

3. 議 事 (深谷委員長による進行)

○議案第1号 令和4年度社会教育事業について

来年度の社会教育事業計画について、別紙資料に基づき各担当から説明を行った。

<以下質疑応答>

(平野) eスポーツフェスティバルは社会教育としてどういった経緯で上がってきたのか。ニーズはあるのか。やることに反対はしないが社会教育でやるべき事業なのか。

(梅田) 私もニーズの問題と予算額が高すぎると感じる。

(深谷) eスポーツ自体よくわかっていないが、これはオンラインでゲームをするという事？

(土佐) eスポーツは今や文化であるという事で社会教育事業と考えてい

ます。新たなコミュニケーションのツールなるのではないか。オンライン上で完結してしまうものであれば社会教育としての意義が薄い、今回は対面でのゲーム大会という趣旨。

(菅) 先日の町民大学で瀬古利彦さんから e スポーツがオリンピックの種目になるかもといった話もでていた。

(工藤) スポーツの苦手な子どもでもできる点は魅力。今まで見たことがない層が来てくれるかも知れない。

(村田) 留辺蘂高校では部活として e スポーツができており、オセロや囲碁などと同様であるという認識に変わってきている。

(坂本) 計画はまだ原案の段階であり予算額 435 万円は最大を見込んでいるためこれから精査します。

(教育長) 社会教育課で実施するか、企画財政課など町長部局で実施するか、あるいは無くなってしまいか、これから町長と協議となりますが、とりあえず検討の俎上に載せたいということで提案しています。

(毛利) スポーツフェスティバル in ゆうべつについて、陸上とサッカーという事ですが少年団のある他のスポーツについても検討していただきたい。

(藤本) 来年度 1 回のみで終わらせる事業とは考えていませんので、他の競技も検討していきたいと思います。また、セミナーは競技に関わらず運動能力の向上や怪我の予防などの内容です。

<全体を通して>

(宮崎教授) これから策定するのは全町単位での中期計画ですが、地区単位や学区単位での計画があってもいいと考えています。地区対抗などそれぞれの取り組みを刺激し合うようなものがあると良いと思います。

○議案第 2 号 第 3 次社会教育中期計画の策定について

第 3 次中期計画の策定にあたり、①策定スケジュールを説明。②第 2 次計画のふりかえりについて各委員の意見について聞き取り。

<家庭教育について>

(梅田) 担当職員によるふりかえりについて、もう少し詳しい現状を記載してほしい。家庭教育学級はどうして組織できなくなったのか。理

由がわからないと意見も出せない。「学校単位」でだめであれば「地域単位」ではどうか。

またコロナについての言及がない。

(菅) PTA 活動も停滞しているように、家庭教育学級も同じように活動が停滞していた。

(渡辺) 児童数の減少で役が回ってくるサイクルが早くなり親にとって負担になっていたという話は聞きました。コロナについて記載すると取組み状況とコロナの状況で混乱すると考えてあえて記載していません。

(平野) ふりかえりをするならばコロナの影響は無視できない。

(梅田) 現在の計画にも書いてあるとおり家庭教育は重要です。その考えが親まで届かなかった。キャッチボールができなかったという事ではないか。

(平野) 前回の策定時もそうだったが、計画の文章は変えなくてもいいくらい完成度が高い。ただどうやって具体化するのかという部分が難しい。

(宮崎教授) 個々の活動では大変でしょうからプロジェクトチームを作って委員さんたちが保護者と対話するなど調査研究を行うのはどうでしょうか。

また、子どもと親だけでない周りのサポートの事を考えるべき。

<少年教育について>

(渡辺) 青少年指導センター、子ども会活動について児童数の減少とコロナの影響もあって参加チームがなかなか集まらない状況。何か方策を考えなければ活動が縮小していくという懸念があります。

(工藤) コロナで2年活動が止まっており、役員の引継ぎがちゃんとされないまま卒業してしまっている。役員もノウハウが継承されず負担になっている。

ただ、参加者が少なくなったらなっただで一体感は生まれる。

(梅田) 体験塾、チャレスポは児童数が減少しているにもかかわらず参加者が増えている。このまま続けていきたい。

(宮崎教授) 事業の意義、目的を考えれば参加者数を増やすことが目的ではないでしょうから、どのように評価するかという事です。一体感が生まれた、つながりができたというポジティブな評価は大切な視点。また、リーダーを養成しようとする働きかけはとても良い取り組みだと思います。

あとは、研修でもコメントしましたが各領域ごとの関連性を考えるべき。良いところは他の領域にも生かせるはず。

(深谷) そろそろ時間ですので今日はここまでにします。次回3月の定例会で残りのふりかえりを終わらせるには時間が足りないようなので、1月に会議を開催することにします。

5. 閉 会 終了 17時10分

令和3年度 第3回社会教育委員会議案

と き 令和3年12月8日(水)
午後3時10分
ところ 文化センターさざ波 中会議室

〈会議日程〉

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 議 事

議案第1号 令和4年度社会教育事業について

議案第2号 第3次社会教育中期計画の策定について

- ①策定スケジュールについて
- ②第2次計画のふりかえりについて

その他

- ①令和4年度各種研修会等の予定について

5. 委員長あいさつ ・ 閉会

湧別町教育委員会

社会教育委員名簿

役 職	氏 名	住 所	出欠	備 考
委員長	深谷 聡	計呂地		
副委員長	山本 重幸	錦町		
	梅田 唯士	上湧別屯田市街地		
	平野 寿雄	上湧別屯田市街地		
	安瀬 勇	上湧別屯田市街地		
	武藤 智和	開盛		
	杉原 武純	旭		
	村田 一平	中湧別南町		
	毛利 美紀子	中湧別北町		
	渡辺 香織	中湧別南町		
	鈴木 由美子	栄町		
	工藤 雄希峰	登栄床		
	三橋 裕介	中湧別南町		
	菅 済	富美		

(教育委員会)

役 職	氏 名
教育長	阿部 勉
社会教育課長	坂本 雄仁
社会教育課主幹	藤本 祐司
社会教育G主査(社会教育担当)	渡辺 武文
社会教育G主査(文化振興担当)	土佐 信太郎
社会教育G主事	鈴木 健太
社会教育G主事	原 茉畝
社会教育課参事 <small>(図書館館長、ふるさと館JRY・郷土館館長)</small>	中島 一之
図書館主査(湧別図書館)	高橋 結香梨
図書館主査(中湧別図書館)	北村 公樹
ふるさと館JRY・郷土館主任	林 勇介

議案第1号

令和4年度社会教育事業計画

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画推進項目
基 盤 整 備	生涯学習情報の収集・提供・相談体制の充実	年間	—	○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の発行（毎月） ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情報」の発行（2カ月に1回）（湧別町が当番町） ・町ホームページによる情報の体系的整理と提供 ・動画による事業記録を収集し活用法を模索 ○相談体制の充実 ・生涯学習に関する相談体制の整備に努める。	「湧く湧く」 印刷費 1,212千円	10-1 10-3
	指導者の発掘・養成・活用	年間	—	主体的な学習と地域貢献との好循環をすすめるため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—	10-4
	団体活動の支援・育成	年間	—	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—	10-4
	生涯学習振興奨励事業	年間	—	（生涯学習住民活動推進事業） グループ・サークル等が主体的に行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。（補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%）	3件 300千円	10-4
	施設の整備・運営・連携	年間	—	公共施設再配置計画など上位計画との整合を図りながら、施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	別紙施設整備計画 のとおり	10-2 10-5
家 庭 教 育	家庭教育研修会	12月	文化センター TOM	家庭教育が困難な現状の共通理解と家庭教育の重要性を啓発するための研修会。健康こども課と連携し、ニーズの把握に努め定着を図る。PTA連合会に後援、家庭教育サポート企業に協賛依頼予定。	講師謝礼 100千円 需用費8千円	1-1
	健康こども課との事業協力	年間	—	健康こども課との打合せ会議を開催し、子育て支援センター、子育て世代包括支援センターとの協力体制の充実を図る。	—	1-3 1-4
	家庭教育相談	年間	相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供する。	—	1-2
少 年 教 育	児童宿泊研修会	6/16(木)～17(金)	ネパール北見	社会性を培う機会として、全小学校5年生合同で、体験活動を実施。担当教職員の事前打合せと反省会も行い、目的や役割分担の共通理解やノウハウの蓄積を図る。	参加費57千円 (2,500円×1/2×45人) 需用費15千円 バス借上料98千円	2-1 2-4
	子ども会の育成・援助	年間	—	青少年指導センターの活動支援とあわせ、単位子ども会や湧別地区サポート協議会のあり方について指導助言する。	補助金 250千円	2-2
	第1回子ども会リーダー研修会（仮）	7月	五鹿山公園	住民自治の基盤ともなる地域子ども会の主体的な活動が進むよう、子ども会のリーダーとしての役割や心構えを学び、そのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター会計から支出	2-1 2-2 2-3
	第2回子ども会リーダー研修会（仮）	3月	紋別市生涯学習センター			
	百人一首教室（仮）	11月～1月 毎週土曜日	農村センター	日本古来の伝統の競技を通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。教室で継続指導することで、指導者と参加者の地域におけるつながりづくりも目指す。大会は実行委と教委との共催。小1～大人まで対象。	報償費48千円 需用費61千円	2-1 2-3
	第54回新春交歓カルタ大会	R5.1/22（日）				
湧うゆう湧くわく体験塾	年間 (月2回程度)	町内ほか	小学校4～6年を対象に体験の機会を提供し、知的探求心、地域への愛着とコミュニケーション能力を養成する。また、成人ボランティアの指導を仰ぐことで地域の教育力活用を図る。	報償費35千円 需用費20千円	2-1 2-2 2-4	

令和4年度社会教育事業計画

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画推進項目
少年教育	湧別町・新篠津村友好都市少年交流事業	8月	新篠津村(受入年)	自然や産業体験活動など、児童の派遣と受入の交流を毎年交互に行うことで、お互いのまちの魅力を学ぶとともに交流の輪を広げる。小学校5～6年およびリーダーとして中・高校生も参加。小学生は参加経費の半額、リーダーは全額町負担。	報償費180千円 需用費150千円 保険料16千円 入浴料39千円 バス借上料0千円	2-1 2-2 2-4
青年教育	青年団体の育成・援助	年間	青年会館ほか	子どもを対象とした冬季事業、屯田七夕まつりでの出店など、伝統を受け継ぐ青年団体協議会を支援する。	補助金 160千円	3-1 3-2 3-3 3-4
	令和5年20歳の集い	R5.1/8(日)	文化センターさざ波	20歳を迎えた若者を祝い励ますとともに、社会人としての意識高揚を図る。町主催、教委主管。成年年齢引き下げ(R4)後も20歳を対象とする。 ※軽食ボランティアとの協働 ※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費415千円 需用費41千円	3-1
成人教育	第46回湧別町民大学	9月～11月全5回	文化センターTOM	有志実行委員会組織主催。各ジャンル講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供する。団体とのコラボ企画や、勤労世代の参加促進にも努める。町PTA連合会との連携事業。	運営費助成 2,500千円	4-1 4-2 4-3 4-4
	第12回ふるさと講座	10月	未定	町の人を講師に、地域の価値を学び共感する機会提供のための座学講座。郷土学サークル「ふるさとから学ぶ会」との共催で行う。	講師謝礼 20千円	
	第10回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅	5月	五鹿山公園	普段見落としがちな町の価値(=お宝)を、それに詳しい講師の案内によってバスツアー形式でたずね歩き価値を共有する。昨年中止となった「五鹿山」の魅力を体感する企画	講師謝礼10千円 借上料55千円	
	PTA団体への援助	年間	—	各学校のPTAやその連合組織である町PTA連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円	
	ボランティア団体との連携	年間	文化センターさざ波ほか	はまなすボランティアなど自主的な奉仕活動を支援する。	—	
高齢者教育	チューリップ生きがい大学の開設	月1回程度	文化センターTOM・さざ波ほか	高齢者が充実した生活を送られるよう学習活動の機会を提供する。自主活動としてのクラブ活動も支援する。	報償費252千円 需用費36千円 印刷製本83千円 借上料629千円	5-1 5-2 5-3 5-4
	世代間交流事業・社会活動参加奨励	年間	学校ほか	学校からの求めに応じ、小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	—	
芸術文化活動	文化団体の育成援助	年間	—	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助を行う。	補助金 350千円	6-2 6-4
	鑑賞機会提供団体の育成援助	年間	各文化センター	A.良いもの見よう聞こう会の活動支援 B.企画委員会ビッグ・ウェーブの活動支援 C.その他実行委員会等への活動支援	補助金 10,000千円	6-1 6-2 6-4
	幼児芸術鑑賞会	未定	文化センター・児童センター	幼児対象(2日2公演) 公演内容 未定	公演料 500千円	6-1
	児童芸術鑑賞会	未定	文化センターさざ波	小学生全学年対象(1公演) 公演内容 「海底2万マイル」劇団ポプラ ※町内小学校5～6年生の紋別市鑑賞会の参加は未定。令和4年度開催未定。	公演料 825千円	6-1

令和4年度社会教育事業計画

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画 推進項目
スポーツ 教室 ・ 講習 会 事業	スラックライン体験教室	5月～6月	中湧別総合 体育館	スラックラインの基礎を学び楽しみ方を味わせるとともに、技法を習得させる。 講師：北海道スラックライン代表 山森 和也 氏 対象：小学生～一般	講師謝礼 60千円	9-1 9-2 9-3
	ジュニアスイミングスクール	7月	湧別プール (第1回)	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。	講師謝礼 48千円	
		8月	湧別プール (第2回)			
	少年少女初心者スケート教室	R5. 1月予定	芭露ス ケートリ ンク	初心者に対してスケートの楽しさを味わせるとともに、技法を習得させる。	講師謝礼 12千円	
	クロスカントリースキー教室	R5. 2月予定	五鹿山ス キー場	スキーの楽しさを味わせるとともに、初心者から上級者まで幅広い技法を習得させる。 講師：NPO法人北海道ライフスポーツ推進協会 理事長 島田 武彦 氏	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬7千円	
	健康運動教室	4月～3月	湧別総合 体育館	トレーニング器具等を使った個人（または集団や団体）指導を行うことにより町民に健康維持増進と体力の向上を図る。 担当：運動指導職員 原 菜畝	-	
運動指導	4月～3月	湧別総合 体育館他	①湧別総合体育館トレーニングルーム指導 水・金（9：00～11：00） 火・木（14：00～16：00） ※曜日・時間は変更する可能性有 ②個別運動相談・トレーニングメニュー作成 ③保健福祉分野との連携	-		
スポーツ 推進 委員 事業	チャレンジスポーツスクール事業	5月～3月	湧別総合 体育館他	低学年から様々なスポーツに触れることで、自分に合ったスポーツを見つけ出すきっかけづくりと、学校を越えた友達づくりの一助とする。 5月 五鹿山マラソン・入学式（湧別総合体育館） 6月 フットベース（湧別総合体育館裏） 7月 キャンプ（湧別総合体育館裏） 8月 室内雪合戦（湧別総合体育館） 9月 パークゴルフ（湧別総合体育館） 10月 風船バレー・ミニバレー（湧別総合体育館） 11月 カローリング・ハッピーボーリング・バタンク（湧別総合体育館） 12月 フロアボール（湧別総合体育館） 1月 スケート体験・氷上ホッケー（芭露スケートリンク） 2月 タグラグビー（湧別総合体育館） 3月 ミニ運動会・卒業式（湧別総合体育館）	講師謝礼 パークゴルフ 5千円 フロアボール 10千円 タグラグビー 5千円 スポーツ推進委員 報酬269千円	9-1 9-2 9-3
	巡回スポーツ指導	随時	町内	自治会・老人クラブ等の要請に基づき、スポーツ推進委員が向き、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。	スポーツ推進委員 報酬13千円	9-2 9-3
スポーツ推進委員事業	スポーツ推進委員研修	随時	管内 道内	町民のスポーツ活動の的確な支援を行うため、研修を通じて委員としての資質向上を図る。 遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会 オホーツク管内社会体育振興セミナー 北海道スポーツ推進委員研究協議会	スポーツ推進委員 報酬152千円 費用弁償98千円	9-2 9-3

令和4年度社会教育事業計画

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画 推進項目
団体活動の育成援助等	少年スポーツ団体の育成援助	年間	-	少年団本部への補助	補助金600千円	9-2 9-4
	一般スポーツ団体の育成援助	年間	-	体育協会への補助	補助金735千円	
	大会出場助成	年間	-	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助成する。(湧別町スポーツ・文化遠征費補助金)	補助金2,000千円	
	合宿誘致助成	年間	各施設	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を図る。(湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金)	補助金1,464千円 詳細は別紙関連事業に記載のとおり	
施設の整備活用	施設の整備	年間	各施設	施設の点検、適正な維持管理を図る。	詳細は別紙社会教育施設整備計画のとおり	9-4
	施設の活用	年間	各施設	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設の有効活用を図る。	学校開放運営報償 120千円	
その他	スポーツ安全保険の加入促進	随時	-	広報及び事故手続き等の補助	-	9-2
図書館	図書館資料の収集、整理、保存	通年	両館	両館を特徴付けた選書を行い、それぞれに蔵書を区分し保存する。 ・資料等計画的に幅広く豊富に備え、適切な蔵書構成を維持する。 ・貴重資料のデジタル保存	資料費(図書、雑誌、新聞、視聴覚) 8,270千円	7-1
	利用促進、読書機会の提供	通年	両館	第3次社会教育中期計画策定 第2次子どもの読書活動推進計画の策定		7-2
				調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。		7-2
				新着図書案内や図書館行事など、最新情報の提供に努める。 ・読書通帳提供 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの活用		7-2
				来館が困難な町民に対して宅配便を活用して個別に配送貸出を行う。 ・宅配貸出サービス		7-2
活動	ブックスタート	毎月1回	健診会場	4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタートバック(絵本などが入ったバック)をメッセージと共に手渡す。また、5歳児健診時には絵本を1冊とブックガイドを渡す。 協力(バック制作) ・ルピナスの会 協力(読み聞かせ) ・リーディング倶楽部たんぽぽ ・湧高ボランティア部	資料費(絵本) 130千円	7-2
	絵本くらぶ	年間 (毎月1回)	両館	3歳までの乳幼児がいる家庭におすすめ本セットを宅配する。(登録制)		7-3

令和4年度社会教育事業計画

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画 推進項目
図書館	移動図書館車の運行	通年	両館	移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。 図書館職員が選本した文庫を配本する。 ・各小中学校、義務教育学校、湧別高校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等		7-4
	学校図書館支援	通年	町内学校	・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館レイアウト相談 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学の受入 ・職場体験の受入 ・読書オリエンテーション ・家読おすすめ絵本リスト作成配布		7-2 7-3
図書館	古本コーナー	通年	両館	古本、古雑誌のリサイクル活動。		7-2 7-3
	特別展示	9月～10月	両館	町民大学講師著作展示		7-2 7-3
		年間	両館	テーマ：年中行事		
		4/23～5/10	両館	子ども読書週間		
		10/27～12/5	両館	読書週間		
		未定	中湧別図書館	絵本原画展示	著作物使用料 30千円	
年間	両館	協力展示（展示スペースの貸出）	—			
図書館	連携・ネットワーク	通年	両館	ボランティア、サークル育成 ・読み聞かせ活動支援（りんごっこ、リーディング倶楽部たんぼぼ、湧別高校ボランティア部）		7-4
		年3回	児童センター	児童センター事業支援 ・読み聞かせ会参加協力、読書推進事業の実施	消耗品 教材 20千円	
		会議3回 研修2回	湧別図書館	図書館協議会 ・定例会議 ・委員視察研修 （遠紋ブロック研修会：遠軽町） （オホーツク管内公共図書館協議会：遠軽町）		
		7月～9月	両館	・北海道教育委員会主催「本を読んでファイターズを応援しよう」キャンペーン参加		

令和4年度社会教育事業計画

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画推進項目
文化財保護活動	文化財の保護① 埋蔵文化財	年間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> ○発行行為に伴う埋蔵文化財の保護事業 <ul style="list-style-type: none"> ・開発事業者との事前協議 ・所在調査、試掘調査 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 <ul style="list-style-type: none"> ・現状確認（遺跡パトロール） ・周知資料（台帳等）の整備 ◎シブノツナイ竪穴住居跡の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査：竪穴住居跡の年代等内容確認 ＊7月中旬～8月中旬予定 ・発掘調査概要報告書の刊行 ○シブノツナイ竪穴住居群調査検討委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・有識者3名、国・道の担当者2名程度 ・夏と冬の2回開催 		8-1
	文化財の保護② 自然関連	年間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> ○北海道指定文化財アッケシ草群の経過観察 ○天然記念物の手続（死亡・はく製・調査） <ul style="list-style-type: none"> ・オジロワシ ・タンチョウ ○記念木業務における関連部署との調整 		8-1
博物館活動	博物館資料① 収集	年間	郷土館・ ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> 【開拓関連資料】 ○資料寄贈への対応 【考古資料】 ○発掘調査に伴う出土資料の文化財認定と譲与申請 		8-1
	博物館資料② 整理・保管	年間	郷土館・ ふるさと館JRY ・収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> ○考古資料 <ul style="list-style-type: none"> ・シブノツナイ 竪穴住居群出土資料の整理 ○開拓関連資料 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の保存環境整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 <ul style="list-style-type: none"> ・金属資料の清掃整理（防さび塗料塗布等） ・ガラスネガの写真的整理公開 ・資料外保管物の処分 ・JRY収蔵量増加 ・資料移動（旧芭小体育館） ○収蔵資料の特別利用許可に関する業務 		8-1
	調査研究	年間	—	<ul style="list-style-type: none"> 【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> ◎屯田関連情報の収集 ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の系統化 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活 【埋蔵文化財の保存・活用、博物館教育】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> （主にシブノツナイ竪穴住居群） ・竪穴住居跡の集落形成に関する研究 ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡を活用した博物館教育の実践的研究 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・大学等研究者との共同研究 		8-1
	展示	年間	郷土館 ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> ○収蔵資料の展示 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の発掘調査成果展（仮） ○郷土館協力員（旧ボランティアガイド） <ul style="list-style-type: none"> ・展示解説（7月～8月、団体見学日など） 		8-2
			<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示更新 <ul style="list-style-type: none"> ・解説パネルの追加 ・資料名表示の更新 ○収蔵展示室整備 		8-2	

令和4年度社会教育事業計画

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画推進項目
博物館活動	博物館教育① 学校授業・研修会・講座	年間	郷土館・ ふるさと館JRY	【学校授業・研修会・講座】 ○開拓の歴史 （博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習として実施） ・労働体験（鋸・斧・鉈） ・炊飯体験（薪ストーブ・羽釜） ・開拓期の衣体験 ・囲炉裏疑似体験（屯田生活体験館） ○博物館親子講座 ○先史文化 （文化財である遺跡に触れ、親しむ機会の提供） ・先史の工夫を学ぶモノづくり学習（土器・勾玉） ・遺跡に親しむフィールドワーク ・遺跡の知識を深める考古学関連講座 遺跡調査報告会（11月予定） ＊調査成果に応じて実施を判断する ・発掘調査現地説明会の実施（主に学校を対象） ・大学と発掘調査を通じた連携		8-3
	博物館教育② 広報・情報提供	年間	—	【広報・情報提供】 ○博物館だよりの発行（湧く湧く内、HP） ○郷土史に関する情報提供及び質問対応（レファレンス）		8-3

中期計画推進項目の欄は、第2次湧別町社会教育中期計画における推進項目との対応を示すものです。

中期計画における領域	推進項目	表記
第1節 家庭教育	学習機会の提供	1-1
	活動等の支援	1-2
	学習環境づくり	1-3
	連携ネットワーク	1-4
第2節 少年教育	学習機会の提供	2-1
	活動等の支援	2-2
	学習環境づくり	2-3
	連携ネットワーク	2-4
⋮	⋮	⋮
第10節 生涯学習の基盤整備	学習推進体制整備	10-1
	施設整備・活用	10-2
	学習情報収集・相談	10-3
	指導者養成・団体	10-4
	連携ネットワーク	10-5

令和4年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	備考
青少年指導センター 事業	子ども会フットベースボール大会（仮）	6月下旬（日）	未定	単位子ども会の大会への参加を通して、青少年の健全育成を図ると同時に、地域子ども会活動の促進と、相互の交流を図る。また、監督会議や反省会等を通じ、育成会で構成される組織運営の健全化を図り、地域自治の基盤づくりを支援する。	
	子ども会交通安全駅伝競走大会（仮）	8月下旬（日）	開盛小 → 中湧別小		
	子ども会ミニバレーボール大会（仮）	11月下旬（日）	中湧別総合体育館 湧別総合体育館		
	子ども会リーダー研修会（仮）	7月3日	五鹿山公園 紋別生涯学習センター	社会教育事業 少年教育参照	
	中高生リーダーの養成	年間	ふるさと館JRYほか	リーダー研修会の企画運営などを行う、中・高生リーダークラブ「E=QVL（イクアル）」および「Rainbow prop（レインボープロップ）」と、その指導にあたる青少年指導員の活動を支援し、地域づくりやまちづくりに参画できるリーダーの養成を図る。	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに健全育成を図る。①あいさつ運動②指導、補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	
文化連盟	総合文化祭	芸能の部 10月予定 展示の部 10月予定	文化センターさざ波 文化センターTOM	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。	
良いもの見よう聞こう会	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	未定	
ビッグ・ウェーブ	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	未定	

令和4年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	備考
体育協会	ゆうべつ五鹿山マラソン2022	5/8 (日)	五鹿山スキー場	五鹿山スキー場を駆け上がるマラソン大会を実施することにより、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることを目的とする。	教委、スポーツ推進委員も運営協力
実	チャレンジデー2022	5/26 (水)	町内	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進する。	
行	駒澤大学合気道合宿	7月～8月	レイクパレス	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：30名予定	
委	合気道正道友和会合宿	9月	レイクパレス	町内で合宿を行い、公開練習等を通して町民と交流を図るとともに合気道の普及を図る。 合宿予定人員：10名予定	
員	北柔会関連道場柔道合宿	10月	湧別総合体育館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室を開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 合宿予定人員：80名（指導者含む）予定	
会	湧別原野林-ツクノスカウトリ-スキー大会	R5. 2/26	遠軽町 →湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース95km	

令和4年度社会教育施設整備計画（500千円以上または主要なもの）

（単位：千円）

施設名	改修・整備等内容	事業費	備考
文化センター さざ波・TOM共通	非常用設備修繕<排煙窓>	2,200	
	情報通信ネットワーク環境整備工事	850	
文化センターさざ波	舞台吊物装置改修工事（全4期中1期目）	48,136	
	建物塗装工事（さざ波タワー部 全5期中5期目）	22,589	
	照明LED化工事（屋内、外灯）	6,801	屋内14灯 外灯11灯
	音響設備取替工事（多目的ホール）	3,520	
	高圧受電設備修繕	757	
湧別総合体育館	トレーニング機器リース機器購入 トレッドミル、アップライトバイク インパクトチェストプレス インパクトラットプルダウン インスチンクトペクトラルフライ/リアデルト インスチンクトレッグプレス/カーフ インスチンクトレッグエクステンション/カーフ 各1台（合計7台）	リース4月 ～6月3ヶ月 分 325 購入987	令和4年6月 30日でリー ス期間満了 のため買取
湧別総合体育館	LED化改修工事	2,387	外灯6灯
湧別プール		12,881	場内42灯
中湧別総合体育館	高圧受電設備改修工事	7,686	
湧別総合体育館	手押し式芝刈機の購入	565	
湧別屋内ゲートボール場	LED化改修工事	7,359	外灯6灯 場内45灯
	非常用放送設備工事	1,936	
五鹿山スキー場	リフト緊張索更新及び誘導滑車整備工事	6,149	
芭露スケートリンク	散水用2tトラック	3,000	
中湧別図書館	大型ロールスクリーン更新一式	2,791	修繕料
湧別図書館	高圧設備改修工事一式	802	修繕料
	暖房給湯温水器更新工事一式	7,100	工事請負費
ふるさと館JRY	メイン展示室水銀灯修繕	1,215	

第3次湧別町社会教育中期計画審議スケジュール

年度	月日	会議・策定項目	内容	備考
令和3年度	R3.10月下旬	委員長、副委員長	・策定に向けての方法やスケジュールなど今後の方向性について協議	
	R3.12月下旬		・社会教育委員研修会（北海道大学大学院教育学研究院教授） ※12月定例会議と同日開催	
	R3.12月下旬	定例会議	・策定までのスケジュール確認 ・第2次計画のふりかえり（家庭教育）	
	R4.1月下旬	全体会議	・第2次計画のふりかえり（図書館、博物館、家庭教育、少年教育、青年教育）	
	R4.3月下旬	定例会議	・第2次計画のふりかえり（成人教育、高齢者教育、芸術文化、スポーツ）	
令和4年度	R4.4月上旬		・中期計画策定に係る諮問起案	職員用
	R4.4月中旬		・事務局（担当係長）打ち合わせ（部会の構成、素案の作成、報告書類、合議）	職員用
	R4.4下旬	定例会議	・諮問書の提出（教育長→委員長） ・中期計画の策定（計画書の構成（案）、基本構想（案）、専門部会の構成、今後のスケジュール）	
	R4.6月～9月	専門部会	・「現状と課題」（素案）の協議・まとめ （各専門部会ごとに1～2回程度の開催）	
	R4.10月	定例会議	・専門部会より「現状と課題」の報告、全体の整合性確認 ・社会教育目標の見直し ・中期計画テーマの見直し	
	R4.10月～11月	専門部会	・「現状と課題」（素案）の協議・まとめ （各専門部会ごとに1～2回程度の開催）	
	R4.12月中旬	定例会議	・計画全体のまとめと最終調整、計画（案）の完成	
	R4.12月中旬	委員長、副委員長	・正副委員長より計画（案）を教育長へ答申	
	R5.1月上旬		・教育委員会において答申の報告	
	R5.1月上旬～2月上旬		・パブリックコメントの受付（1/10頃～2/9頃）	
	R5.1月下旬		・印刷製本見積り合わせ起案	職員用
	R5.2月中旬	全体会議	・コメントがあれば社会教育委員に意見聴取	
	R5.2月中旬		・コメントの結果について教育委員会へ報告、計画の策定	
	R5.2月中旬		・印刷原稿提出	職員用
R5.3月下旬		・印刷物成果品、発行、湧く湧く、HP掲載		

○第3次湧別町社会教育中期計画策定ロードマップ

区分	R3年度						R4年度												
	R3.10月	R3.11月	R3.12月	R4.1月	R4.2月	R4.3月	R4.4月	R4.5月	R4.6月	R4.7月	R4.8月	R4.9月	R4.10月	R4.11月	R4.12月	R5.1月	R5.2月	R5.3月	
正副委員長のみ	→ 策定方法やスケジュールなど今後の方向性について協議（定例会議後）														→ 計画（案）を教育長へ答申				
社会教育委員研修会 （教育委員、社会教育委員、図書館協議会委員、スポーツ推進委員）			→ ・北大から講師派遣による研修会 『社会教育中期計画策定のために必要な視点』																
定例会議 （社会教育委員）		→ ・策定までのスケジュール確認 ・第2次計画のふりかえり			→ 第2次計画のふりかえり		→ ・諮問書の提出（教育長⇒委員長） ・計画書の構成（案）、基本構想（案）、専門部会の構成、今後のスケジュール）					→ ・専門部会より「現状と課題」の報告、全体の整合性確認 ・社会教育目標の見直し			→ ・計画全体のまとめと最終調整 ・計画（案）の完成				
全体会議 （社会教育委員）				→ 第2次計画のふりかえり													→ パブリックコメント意見があれば意見聴取		
専門部会	第1部会（基盤整備、施設、少年、青年） （社会教育委員）								→ 「現状と課題」（素案）の協議、まとめ（1～2回程度の開催）										
	第2部会（家庭教育、成人、高齢者） （社会教育委員）								→ 「現状と課題」（素案）の協議、まとめ（1～2回程度の開催）										
	第3部会（芸術文化、博物館） （社会教育委員）								→ 「現状と課題」（素案）の協議、まとめ（1～2回程度の開催）										
	第4部会（図書館） （図書館協議会委員）								→ 「現状と課題」（素案）の協議、まとめ（1～2回程度の開催）										
	第5部会（スポーツ） （スポーツ推進委員）								→ 「現状と課題」（素案）の協議、まとめ（1～2回程度の開催）										
教育委員会															→ 教育委員会に答申の報告		→ コメント結果について報告、計画の策定		
事務局 （社会教育課）						→ 諮問起案	→ 担当者打ち合わせ（部会の構成、素案の作成、報告書類、合議）（中旬）								→ パブリックコメント意見の募集	→ 印刷製本見積り合わせ起案	→ 印刷原稿提出	→ 印刷物成果品送付、湧く、湧く、HP掲載	

第3章 社会教育の現状と課題・推進目標

第1節 家庭教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【家庭教育の現状と課題】

家庭教育はすべての教育の原点であり、出発点でもあります。

子どもにとって「家庭」は、子ども自身が家族から愛され、かけがえのない存在であることを実感し、心の安定と安心を得て「生きる力」を養う場所であるとともに、家族の歴史や生き方を学び、社会生活に必要な望ましい生活習慣やマナーなどを身につけるところです。

家庭を取り巻く環境は、多様で便利な生活が実現する一方で核家族化により家庭教育は孤立の傾向にあります。

生活スタイルや価値観の多様化は、地縁的なつながりを希薄にし、近所での気軽な話し合いや助け合いを減少させています。加えて核家族化は、親から子育ての援助や知恵が得られにくい状況をつくり出しています。とりわけ、子どもを通して他の親と交流する機会の少ない0～3歳児を持つ核家族の親にとっては、子育ての不安や悩みを相談しにくい環境に置かれているといえます。子どもはまちの宝であり地域全体で守り育てていかなければなりません。

現在、子どもの誕生を祝う民間有志団体が発足し、活動を続けています。一方、幼保小中高生の保護者を対象に家庭教育の大切さを学習する場として開催している「家庭教育研修会」は異年齢の親が一堂に会し、交流を深め、経験から学ぶ良い機会ですが、参加者が少ない状態が続いています。さらに、各校の教頭先生による「家庭教育推進員」としての活動および学校単位での「家庭教育学級」の活動、PTAにおける取り組みも親同士のよい交流機会となっていますが、参加者数が少なく運営に苦慮するほか、学級の新規設置も進まない状況にあります。周囲との関わりに消極的な家庭も見受けられるため、開催方法の工夫により参加を促すことも必要です。そのほか、個別の事情に寄り添う教育アドバイザーによる常設の家庭教育相談も実施しています。乳幼児期の家庭教育支援については、ブックスタートをはじめとする図書館事業や民間団体によるブックカフェの実施、子育て支援課による育児学級事業などがありますが、情報の発信・共有を含め連携が必要です。

子どもが置かれている環境は危うい状況です。社会のモラルが低下し、非人道的な犯罪が頻発し、有害な動画配信やSNS等を通して、大量の情報が刺激的に子どもたちの中に入り込んでいます。発達段階を無視して整理されないまま子どもの中に入ってくる大量の情報は、健やかな成長の阻害要因になり、いじめ、非行、犯罪への誘発要因ともなっています。家族が一緒に集い暮らし、団らんの語らいの中でゆったり行われる家庭教育の役割、重要度は、今日より大きくなっているといえます。

＜今後の課題＞

- 家庭と地域の教育力向上を図るために、地域社会における家庭教育支援の大切さを広く周知する必要があります。
- 0～3歳児を持つ親への支援や団体間の連携を強化する必要があります。
- 「家庭教育学級」が、すべての学校で開設できるよう働きかけるとともに、「家庭教育研修会」の意義・役割を広める必要があります。
- 開催場所の設定にあたって保護者が集まるような場所に出向くことも、検討が必要です。
- 家庭教育支援に関わる機関との情報の共有・連携を強化する必要があります。
- 孤立しがちな子育て世代を支援するため、ボランティアを育成する必要があります。

(推進目標と推進項目)

家庭教育 推進目標	子どもは町の宝 手を取り合い支え合って 育てよう
--------------	-----------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きるネットワーク	学習機会の提供	●家庭教育への理解を深める研修事業を充実する。	・H30年度に家庭教育学級が終了したことから現在は教育委員会主催で実施している。参加者が減少傾向であり、R1、R2はものづくりを主体とした研修会として実施した。R3は講演の後にグループ交流、個別懇談を実施予定。（参加者H30:36人、R1:25人、R2:22人）	
		●家庭教育を担う保護者が必要とする情報を発信する（情報誌やインターネットなど各種メディアの活用）	・教育アドバイザーが毎月テーマを決め、「湧く湧く」に家庭教育コーナーをR3年度中に創設予定。また、町ホームページを充実させ、家庭教育相談について周知し双方向での交流を進めたいと考えている。	
		●家庭教育事業の実施場所を対象者の集う場所にあわせて設定する方法を検討する。	・教育アドバイザー2名により主に学校を通じた相談業務を行っている。	
	活動等の支援	●「家庭教育学級」など、家庭教育への意識を高める学習活動を支援する。	・児童数の減少や地域のつながりの希薄化、個人重視の風潮など時代の変化により学校区での組織化ができなくなりH30年度で終了	
		●子育てサークル等の育成と支援を充実する。	・「ママとキッズのオープnbックカフェ」の取組みに対し支援を行っている。 ・イベントに対しては生涯学習振興奨励事業補助金により支援している。 (H30:1団体、R1:2団体、R2、R3実績なし)	
	学習環境づくり	●「家庭教育学級」の全町の小中学校開設を促進する。	・児童数の減少や地域のつながりの希薄化、個人重視の風潮など時代の変化により学校区での組織化ができなくなりH30年度で終了。	
		●子育ての悩みや喜びをわかちあえる気軽に集う場（サロン）を創設する。	・子育てサロンを社会教育課主導で創設するのではなく、長期的な視野にたって家庭教育ナビゲーターなどの人材を育成していき、創設を促す。	
	ネットワーク	●子どもの育ちを支えるネットワークを構築する。	・地域の子育てサポーターなどで構成する家庭教育支援チームの創設を目指し、長期的な視野にたって家庭教育ナビゲーターなどの人材を育成していく。 ・健康こども課との打ち合わせ会議を実施しており、子育て支援センターや子育て世代包括支援センターとの協力体制の充実を図っている。	
		●家庭教育を担う保護者の発言が反映されるメディア（=情報媒体）を構築する。	・教育アドバイザーが毎月テーマを決め、「湧く湧く」に家庭教育コーナーをR3年度中に創設予定。また、町ホームページを充実させ、家庭教育相談について周知し双方向での交流を進めたいと考えている。	
●子育て支援センターや図書館など、各種関係機関・団体との協力体制をつくり、連携を図る。		・家庭教育研修会では、PTA連合会、健康こども課の後援のほか、幼稚園・保育所・湧別高校に加えて家庭教育サポート企業の協力も得て実施している。		

第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【少年教育の現状と課題】

現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。

多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせたコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。

また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れていますが、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていません。ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。

このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。

現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会においては、既存の単位子ども会のほかに湧別地区子ども会の連合組織「湧別地区サポート協議会」を加えてチーム編成するなど、湧別地区からも参加しやすい工夫をしながら実施しています。

しかし、これらは合併前からの継続事業であり、地区ごとの参加者数の偏りが見受けられることから、リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。

<今後の課題>

- 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。
- 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。
- 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要です。
- 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。

(推進目標と推進項目)

少年教育 推進目標	少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう
--------------	----------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習提供	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の特性を生かした数多くの体験学習活動を提供し、豊かな人間性の養成を図る。 ●年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を提供し、充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童宿泊研修会、湧くわく体験塾、湧別町・新篠津村友好都市少年交流事業などを主催し、さまざまな体験学習活動の機会を提供している。また、百人一首教室や子ども会事業を支援している。 ・青少年指導センターの主催により、全町の小中学生を対象としたスポーツ事業を開催している。 	
	活動支援等	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども会や青少年指導センターを支援する。 ●異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区子ども会の連合組織である青少年指導センターが実施する事業に対し補助金による支援を行っているほか、事務局業務を担い支援している。 ・湧別地区では「湧別地区サポート協議会」が各子ども会を取りまとめる組織として活動している。 ・遠軽町、佐呂間町とで組織する遠軽ブロック子ども会連合会はR2年度末に解散となった。 ・高齢者大学による小学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を行っている。 ・湧くわく体験塾では講師に地域の人材を活用しており、地域教育力の向上を図っている。 	
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る。 ●地域の成人指導者の活用を図る。 ●小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回のリーダー研修会を開催し、地域子ども会のリーダーとして必要な知識や技術の習得を図っている。 ・リーダー研修会では青少年指導センターの青少年指導員を活用して実施、百人一首教室では実行委員会の指導者を活用して実施している。 ・子どもを対象とした冬季事業などを自主開催し、地域を活性化する活動を展開している青年団体協議会の活動支援を行い、次世代につながる指導者の養成を図っている。 ・取組みの成果として子ども会のリーダークラブOBから青少年指導員となった好事例がある。 	
	ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。 ●小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。 ●児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。 ●学校の求めに応じ、コミュニティスクールに社会教育が積極的に参加協力を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と社会教育が連携し、授業の一環として町内の全小学5年生を対象に児童宿泊研修会を実施している。 ・小学生低学年を対象にチャレンジスポーツを開催し、日頃接することの少ないさまざまなスポーツの楽しさを味わってもらう。 ・湧くわく体験塾では関係団体と連携を図り、講師として指導をお願いしている。 ・地域と学校関係者で組織する学校運営協議会による事業として、高齢者との昔遊び、ふれあいふるさと集会などの実施している。 	

第3節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【青年教育の現状と課題】

成人式の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。

近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。

また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。

現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。

これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。

<今後の課題>

- 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。
- 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。
- 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。



(平成30年成人式)



(上湧別青年団体協議会事業「子ども雪中王様ドッジボール大会」)

(推進目標と推進項目)

青年教育 推進目標	青年は町の原動力 自らを磨き高めよう
--------------	--------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況(担当職員によるふりかえり)	委員からの意見・課題等	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。 ●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。 ●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年団体協議会など研修会の対象と考えられる関係機関に案内を行い参加を奨励している。 ・新たに社会の一員となる20歳の方々を祝い励ますため式典を開催している。 ・ボランティアによる軽食の提供は地場産品の消費を促し、最後の食育の機会として実施している。 ・R3年度から「20歳の集い」と名称を変更し、成人年齢の引き下げ後も20歳を対象としている。 ・高校生リーダークラブ「Rainbow prop」や湧別高校ボランティア同好会等と連携し、社会教育事業の参加などの支援をしている。 	
	の活動支援等	<ul style="list-style-type: none"> ●青年団体協議会が行う自主活動を応援し、広く周知に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の活動に対して助言等を行うとともに、青年会館の提供や運営費の補助を継続している。主催事業の「雪中ドッチボール大会」では、子ども会会員から事業の参加者を募り、大会当日の支援を行っている。 	
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援(まちづくり青年会議の創設) ●若い女性の社会参加を図る。 ●団体リーダーの養成と活用を図る。 ●地域活動への参加に向けて意見交換の機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町部局で進める「産業間ネットワーク」では、商工会・漁協・農協などの青年・女性組織が協議する場が提供されているものの、「まちづくり青年会議」の創設には至っていない。 ・女性を対象にした事業展開は進んでいないのが現状。社会教育が果たすべき役割を模索している。 ・青年団体協議会の自主的な活動を通じリーダーの養成を図った。 ・青年団体協議会とは活動に対する助言等を通して意見交換している。 	
	ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会青年部の主催イベントに漁協青年部、JAゆうべつ青年部、JAえんゆう青年部、湧別青年団体協議会が協力するなど青年同士の連携が見られている。 	

第4節 成人教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【成人教育の現状と課題】

成人期は、職場や家庭、地域において、中心的な役割を担い、体力、知力的に最も社会に貢献できる時期であり、それぞれの立場で、地域や団体活動の中心的役割を果たすことが期待されている時期です。

しかし成人期は、その立場から毎日が忙しく、社会参加や自主的な活動は、参加の意欲がありながら難しい状況にあります。

一方で成人の75歳以上を高齢期として区分し、65歳から74歳までを社会に参加しながら健康な高齢期に備える時期と定義する動きもあります。65歳から74歳までの町の人口は1,445人で総人口の15.8%（平成29年6月末）を占めていますので、この世代を成人期に区分することで人材の幅は大きく広がります。しかしこの世代の現状としては、地域の中心的担い手として活躍する方がいる一方で、地域活動に消極的な方も少なくありません。

現在、町民を講師に迎えて、町の歴史、産業、自然等を町民が学ぶ機会を提供する「ふるさと講座」が町民有志によって運営され、さまざまなつながりが生まれ定着しつつあります。また、実行委員会が運営する「町民大学」では、高度で専門的な学習要求に応えるため、第一線で活躍している講師を招いて実施し、町民の貴重な学習機会になっていますが、参加数は講師の知名度に大きく左右される状況が続いています。また、ボランティア団体、PTA等の社会教育関係団体や有志によるグループ・サークルが自主的に講座や鑑賞会などの社会教育活動を行っており、これらの活動に対して教育委員会が必要な支援を行っています。

今後は、働き盛りの成人と退職後の成人がそれぞれの役割を補い合い、世代間、産業間等の連携をとりながら、世代を束ねるリーダーとなるよう積極的に地域と関わることを求められています。

<今後の課題>

- 「ふるさと講座」は、湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会および指導者養成の場として支援する必要があります。
- 「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開を奨励する必要があります。
- 時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要があります。
- 世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画やまちづくり等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要です。
- 学習を支援するコーディネーターを育成する必要があります。

(推進目標と推進項目)

成人教育 推進目標	成人は町の大黒柱 すすんで地域に関わろう
--------------	----------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	●幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と学習意欲を喚起する。	・生涯学習情報紙、かわらばん、町ホームページなどを活用し事業の周知に努めている。
		●ふるさとを学ぶ機会の充実を図る。	・ふるさとから学ぶ会との共催事業として「ふるさと講座」を開催し、湧別町にこだわった歴史、産業、地域等について学ぶ機会を提供している。
		●既存事業（町民大学等）の魅力を広く伝える。	・広報、新聞等で町内外に広報活動を行うとともに、魅力ある講師や旬の講師を招聘するべく実行委員会で検討を行っている。
		●地域に関する学習機会を提供する。	・ふるさとから学ぶ会との共催事業として「わが町のお宝をたずねる旅」を開催し、町にあるお宝の魅力、すばらしさ、価値を知る方々の案内で、町のお宝を紹介する機会を設けている。
	活動等の支援	●社会教育各種団体等へ支援を図る。	・はまなすボランティア、PTA、各実行委員会等それぞれの活動に応じた支援をしている。
		●おたがいの仕事や暮らしぶりを知り、地域を知ることにつながる学習活動を支援する。	・「ふるさと講座」では漁業、農業や医療をテーマとするなど、それぞれの立場において地域の産業を学び合う機会となっている。
		●自主的に企画し実践するサークルなどの活動支援を充実する。	・生涯学習住民活動推進事業により、町民によるグループ・サークル等が自主的に町民に対して行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行っている。
	学習環境づくり	●事業を反省評価し、次へ生かす取り組みを支援する。	・アンケートの活用などにより事業を反省評価し、次の事業に反映している。
		●行政と住民の協働事業を推進する。	・教育委員会と実行委員会等の団体それぞれの特性に応じた役割分担となるよう努めている。
		●参加者に開会日時や託児サービスなどを配慮した事業を行う。	・年間の事業が重ならないよう日程調整している。また、子育て世帯向けの事業を行う際は託児サービスを行うなどの配慮をしている。
	ネットワーク	●気楽に参加し、すすんで活動できるよう情報の提供に努める。	・生涯学習情報紙、かわらばん、町ホームページなどを活用し事業の周知に努めている。
		●各種団体間の交流を促進する。	・計画的、組織的な交流促進には至っていない。
	●関係機関との連携を図る。	・都度、必要に応じて連携を図りながら事業展開している。	

第5節 高齢者教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【高齢者教育の現状と課題】

年齢や家庭状況、健康状態等によっても差異がありますが、時間的に余裕のある高齢期は、長年培ってきた知恵や経験、技能を生かした社会参加を通して、生きがいのある充実した生活をおくることが期待されています。

湧別町の65歳以上の人口は、全体の37.0%、75歳以上では21.2%（いずれも平成29年6月末）を占めています。地域づくり、まちづくりにおける高齢者の果たすべき役割はより大きくなっており、地域の教育力を高めることにもつながっています。

現在の取り組みとして、湧別地区には生きがい大学、上湧別地区には寿学級が開講されていますが、80歳以上の高齢層が占める割合が増え、自主運営が難しくなってきたことから、基盤強化のため統合に向けた話し合いが進んでいます。2つの高齢者学級では、健康づくりや医療、福祉、終活などをテーマとした学習のほか、演芸やレクリエーションで交流活動が行われています。

また、受身の学習ばかりではなく、学校児童生徒との交流会、子ども百人一首教室の指導など、高齢者が出向いて活躍する場も増えています。

しかし、積極的にグループに所属などして、活発に活動する高齢者がいる一方、地域、社会との交流を持たず、家に引きこもりがちな高齢者が少なくないのも現実です。今日の問題として、要介護（要支援を含む）認定者数が町内で600人を超えるなど、介護予防の必要性が高まっており、その対応も求められています。

高齢者が家族に尊敬され、地域で頼りにされ、感謝される喜びの中で生きがいを持てるようにすることが重要です。

<今後の課題>

- 「高齢者学級」では、主体的な取り組みを可能にする支援が必要です。
- 高齢者が持つ知識や経験、技能を地域や次世代に伝える機会を提供し、生きがいを持てるようにする必要があります。
- 家にこもりがちな高齢者に、地域の身近な情報を提供するとともに、より参加しやすい少人数でのグループ活動などの場を創出する必要があります。
- 60代で退職し、第2の人生をスタートした方たちが、地域の団体に加入する等、積極的参加を促すとともに活躍の場を提供する必要があります。

(推進目標と推進項目)

高齢者教育 推進目標	高齢者は町の知恵袋 豊かな経験を地域で 生かそう
---------------	-----------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	●高齢者の興味関心を呼び起こす事業を創設する。	・チューリップ生きがい大学を開設し、高齢者が生きがいと充実した生活を送ることができるよう学習と活動の機会提供に努めている。
		●知識や知恵をもった高齢者から学ぶ機会を創設する。	・小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図っている。
		●ふるさとを伝える機会を創設する。	
	活動支援等	●高齢者学級の参加者による自主活動の促進と充実を図る。	・生きがい大学では自治会が設置されクラブ活動など自主活動に取り組んでいる。
		●次の世代に伝承する異世代間交流事業を充実する。	・生きがい大学のクラブ活動を中学生が体験する事業や、小学生を対象とした昔の遊び体験事業を実施している。
	学習環境づくり	●知識や知恵を持つ高齢者を把握し、活かすようコーディネートを充実する。	・役員会などの機会の中からアイデアやニーズを吸い上げることに努めている。
		●長寿社会を生きるそれぞれの年齢に応じた学習ニーズを把握し、次世代に豊かな経験を伝える機会を創出する。	
		●少人数でも気楽に参加しやすい環境づくりに努める。	・役員会により参加しやすい学習活動になるよう検討している。
	ネットワーキング	●高齢者学級と他団体との連携を図る。	・小学校の異世代交流などを実施している。
		●高齢者の豊かな経験を生かすために関係機関との連携を図る。	

第6節 芸術・文化活動と文化施設整備の

現状と課題・推進目標・推進項目

【芸術・文化活動と文化施設整備の現状と課題】

芸術・文化は、人間が人間らしく生きるためのものであり、ともに心豊かに生きる社会を目指して、活気と個性あふれるまちづくりを構築するうえでも大きな役割を果たすものです。また、町民の文化活動に対する芸術性や専門性は年々高まりを見せており、文化連盟や関係機関と連携を図りながら、町民のニーズに応える施策を展開し、心の糧となる芸術・文化活動の充実が望まれます。

幼児や小・中学生を対象とした芸術鑑賞会については、一定の評価を得た作品を継続的に実施しました。これからの時代は、ロボットや人工知能には置き換えられない、人間だけにしかできない仕事につく可能性は大きくなります。そのためにも、創造的な能力を伸ばせるよう、青少年が芸術文化に触れる機会の充実が求められています。

また、一般向けの芸術鑑賞会開催に加え、町民が主体的に芸術鑑賞の企画運営に取り組める「芸術文化奨励事業」を実施し、幅広いニーズに応える体制を継続してきました。しかし、一般向けの主催事業、芸術文化奨励事業ともに、出演者の知名度に観客数が左右される傾向があり、全体として集客力は低迷しています。

また、演奏の技術指導やミュージカル等の体験事業といった育成事業には、その参加者に新たな技術と感動を与えることができました。鑑賞事業ばかりではなく育成事業においても充実を図り、鑑賞と創造が両輪となって、地域の文化を活性化していくための環境作りが求められています。

文化連盟については、両地区の文化協会ごとに総合文化祭等を行なっていますが、今後は相互の交流を図りながら文化連盟の自主的な組織活動・事業が充実することが望まれています。

町の合併により文化センターが2館となり、各々文化活動の拠点として芸術文化団体・サークル等が例会・練習の場として主に使用しています。両文化センターは、建設後20年以上が経過し、経年劣化した設備の更新を進めることはもちろん、ホールの特徴を活かした住み分けも考えていく必要があります。

<今後の課題>

- 鑑賞と創造が両輪となった芸術文化活動を推進し、町民が感動にふれる機会を提供することが必要です。
- 芸術文化の持つ創造性を活かし、青少年が芸術文化に触れる機会の充実が必要です。
- 鑑賞事業で多くの人に足を運んでもらう工夫・きっかけ作りが必要です。
- 町民のニーズに合ったカルチャー教室を実施し、芸術文化に携わる人の裾野を広げる必要があります。
- 文化連盟を始め、各種文化団体の活動支援が必要です。
- 文化センターの計画的な設備の更新が必要です。
- 文化センターさざ波、TOMそれぞれの特徴を生かした施設活用が必要です。

(推進目標と推進項目)

芸術・文化 活動推進目標	芸術・文化は未来を生きるヒント 創造力 と豊かな心を育てよう
-----------------	-----------------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	●町民ニーズをふまえた上で、質の高い芸術文化作品の鑑賞機会の提供に努めます。	町民有志団体「良いもの見よう聞こう会」「企画委員会ビッグウェーブ」が主催した演劇、音楽、演芸公演事業の支援。教育委員会の主催では、幼児・児童・中学生の芸術鑑賞事業、合併10周年記念札幌公演を開催し、偏りのない鑑賞機会の提供に努めた。
		●青少年が芸術文化に触れる機会の拡充に努めます。	学校公演事業、ミュージカル体験事業や校歌のイメージビデオ制作、札幌公演の際には町内吹奏楽部の児童・生徒向けにワークショップを行い、芸術文化の専門家に直に触れる機会を提供した。
		●カルチャー教室、各種体験事業、ワークショップなどの実施により、芸術・文化に親しむ機会の提供に努めます。	子ども向けには木工・陶芸教室を継続的に開催し、子どもミュージカル体験事業については、令和元年度まで10年間継続した。また、長らく休止していたカルチャー教室を再開し、気軽に楽しく文化活動に触れ、町民同士の交流が図られる場の提供に努めた。
	活動等の支援	●文化連盟を始め、各種文化団体の活動を支援します。	合併以来2つあった文化協会を統合し、新文化連盟を発足した。傘下団体等の活動を支援した。
		●芸術文化奨励事業補助等制度の活用促進に努めます。	年10回程度行っていた2つの任意団体については、その公演回数の増加が集客に悪影響を及ぼす状況が出てきたため、回数を調整していただき、年間3～6回程度を目安とした。
		●学習の成果を活かす場として、町民ギャラリーや総合文化祭等の活用に努めます。	町民ギャラリーの活用については、定期で利用する団体以外に広がりを促すことができなかった。
	学習環境づくり	●芸術・文化事業の情報提供に努めます。	「湧く湧く」を中心とした町広報、町ホームページの他、関連する鑑賞事業では、新聞折込や新聞広告などを活用し、広く情報の提供に努めた。
		●さざ波・TOM両文化センターの特徴を活かした有効活用に努めます。	音響、調光等、舞台設備が優れているさざ波には鑑賞事業。大規模な平場のホールを持つTOMでは集会関係といった施設の活用のすみ分けを進めた。
		●文化センターの計画的な設備の更新に努めます。	機器や設備、施設全体の更新や補修が集中する時期に差し掛かり、保全には高額な経費を要するため、計画的に更新するよう努めた。 〈さざ波〉調光設備、建物塗装〈TOM〉非常灯、移動観覧席
ネットワーク	●道や他市町村、北海道文化財団等の関係機関との連携を図ります。	道文化財団、北海道、教職員互助会などの助成制度を活用し事業を開催するなど、関係機関との連携を図った。	
	●文化連盟、芸術鑑賞団体、各種文化団体と連携し、芸術文化の振興に努めます。	町内の文化団体とは随時連携を図り、芸術文化活動の支援に努めた。	

第7節 図書館活動の現状と課題・推進目標・推進項目

【図書館活動の現状と課題】

現在、私たちの社会は生活を彩る様々な情報と、その情報を扱う様々なメディアにあふれています。また、インターネットやゲームの普及、娯楽の多様化が日々驚異的な速さで進展し、あらゆる世代の「読書離れ」が危惧される状況です。このような社会環境にだからこそ、幼少期から心を育てる環境整備が急務といえます。

国は読書の持つ計り知れない価値を認識し、子どもの読書活動に対し様々な支援を行ってきました。本町も平成30年度、「湧別町子どもの読書活動推進計画」を策定し、町をあげての読書活動の推進に取り組み始めたところです。

今、あらためて読書の重要性が見直され、読書活動を支える社会基盤として「図書館が果たす役割」は、ますます高まっています。

図書館活動は貸出サービスを中心に、中湧別図書館、湧別図書館の2館、移動図書館車の巡回による広域サービスを実施、あらゆる場所で本を手に取り、自宅で読書できる環境整備に努めています。また、貸出サービスの根幹となる図書館資料収集・整理・保存についても、常に新鮮で適切な蔵書管理に努めており、約14万冊もの図書館資料は図書館システムで一括管理されています。

学校をはじめとする教育施設、保育所、児童センター等の保育・福祉施設、家庭教育の関係団体とも連携し読書活動の推進に努めています。

また、図書館では、図書館司書の専門性を活かした読書活動へのアドバイス、図書館事業の開催、関係団体との連携・支援に努めています。更に各種ボランティアとも連携を図り、町の読書活動の推進に努めていきます。

<今後の課題>

- 新鮮な図書館資料の収集、適切な蔵書構成の維持と管理が必要です。
- 中湧別図書館・湧別図書館の両館が、町の学習拠点として、また憩いの場として充実を図ることが必要です。
- 学校をはじめとする教育施設との連携が必要です。
- 保育所、児童センターをはじめとする保育・福祉施設との連携が必要です。
- 家庭教育の関係団体との連携が必要です。
- 湧別町子どもの読書活動推進計画の実現が必要です。
- 貸出ステーションの見直しが必要です。
- 図書館に来館の難しい利用者に対し、宅配サービス等の検討が必要です。
- 遠隔地に居住する児童生徒等に対し、送迎サービスの検討が必要です。

(推進目標と推進項目)

図書館活動 推進目標	図書館は町民の憩いの場 みんなで学び楽しもう
---------------	------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況 (担当職員によるふりかえり)	委員からの意見・課題等	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	図書館資料の収集・整理	●町民の読書傾向をふまえ、新鮮な図書購入に努めます。	・町民からのリクエストや、新聞等のメディアで紹介された話題の本を調査した。 ・管内でも上位に入る図書購入費を維持している。	
		●郷土資料の収集と分類整理を推進します。	・郷土資料のデジタル化をすすめ、インターネットで公開を開始した。	
		●多様な資料を収集し、中湧別図書館と湧別図書館、並びに移動図書館における蔵書構成の維持管理に努めます。	・両館を特徴付けた選書を行った。	
	利用促進、読書機会の提供	●読書の喜びを伝える魅力的な展示を行います。	・読書週間だけでなく、日常的に展示を工夫し本の紹介を行った。	
		●湧別、中湧別2館それぞれが持つ特徴を活かした展示やイベントを行います。	・古本コーナーを設置した。	
		●気軽に集える読書環境を整備します。	・緊急事態宣言に係る休館中には、本の予約貸出を行った。	
		●図書館システムの更新を行い、図書館資料の適切な管理と利用者の利便性を高めます。	・セキュリティを強化し、管理を行った。	
		●来館の難しい町民に向けての読書環境を整備します。	・宅配サービスを開始した。	
		●移動手段の限られた子どもや高齢者の読書機会を提供する湧別、中湧別2館体制の充実を図ります。	・両館が情報を図書館システムで一括管理している。利用者は本や雑誌など、相互に利用(どちらの館で借りて、どちらの館で返却してもよい。)できるよう常に管理できている。	
	地域社会との交流・団体活動	●適切な移動図書館車運行を実施し、町内全域に向けて読書活動を推進します。	・移動図書館車の巡回時間、ステーションの巡回回数を見直しを行った。	
		●町内施設・団体との交流、読書活動を推進します。	・読み聞かせボランティアグループの活動支援を行い、「リーディング倶楽部たんぼぼ」が、令和2年度の優良読書グループ全国表彰を受けた。	
		●町内施設・団体を窓口に、図書館資料を活用した読書活動を推進します。	・食育活動の協力展示をはじめた。	
	ネットワーク	●学校をはじめとする教育施設との連携を図ります。	・各学校図書館の蔵書整備を行い、新規購入の選書や、おすすめ絵本の紹介誌を作成して、配布したほか、特別展示を伴う配本をはじめた。	
		●保育所、児童センターをはじめとする保育・福祉施設との連携を図ります。	・保育所に、年少児向けの配本をはじめた。	
		●家庭教育の関係団体との連携を図ります。	・ブックスタート会場で、チラシの配布等の協力を行った ・就学時健診会場で、読書オリエンテーションを行っている。	
		●「子どもの読書活動推進計画」により、子どもたちの読書環境を整備します。	・子どもの読書活動推進計画を策定した。	
		●広く図書館情報を発信します。	・「わくわく」に図書館だよりを掲載した。 ・町のホームページを活用し情報提供を行った。	
		●図書館ボランティアとの連携強化に努めます。	・常に連絡を取り、活動を支援した。	
●ネットワークを活用した図書館間の連携を図ります。		・道内図書館と相互協力し、資料を活用した。		

第8節 文化財保護活動・博物館活動の

現状と課題・推進目標・推進項目

【文化財保護活動・博物館活動の現状と課題】

文化財では、天然記念物として昭和32年佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落、埋蔵文化財では昭和42年シブノツナイ竪穴住居群がそれぞれ北海道の文化財に指定され、現在に至るまで大切に保護されてきました。埋蔵文化財は他に北海道を代表する湧別市川遺跡、川西オホーツク遺跡をはじめ所在が確認されている包蔵地は56か所もあります。

博物館活動は、郷土館において地域の特徴である考古資料を中心に湧別地区のあゆみを展示しています。郷土館ボランティアが教育普及活動に協力しています。上湧別地区には一世紀にわたって継承されてきた湧別屯田の資料等の開拓の記録があり、ふるさと館JRYでそれらは保存展示され、明治開拓期の「衣食住」の体験などの教育普及活動が行われてきました。

文化財保護活動・博物館活動の基本は文化財と資料の保存にあります。これらを将来へと確実に継承する保護計画を立案実行することが最大の課題と考えます。

埋蔵文化財はこれまでと同様に開発行為による破壊を防いでいかなければなりません。そして、保護だけではなく調査分析を行い、教育普及活動へつなげていくことも求められます。特にシブノツナイ竪穴住居群は道教委による再調査が3カ年行われ、今後も調査分析の継続が町に求められています。

博物館・収蔵庫にある資料はこれから情勢の変化とは関係なく安定的に保存されていく環境を構築しなければなりません。

保護に加えて、文化財、博物館資料を町民に広く知ってもらい、その存在意義を考えてもらう機会を提供していくことも重要な役割です。そのための方策を考えることも重要な課題です。

〈今後の課題〉

- ・文化財保護活動
 - 埋蔵文化財保護のため所在地の明確化と土木工事等による破壊を防ぐ必要があります。
 - シブノツナイ竪穴住居群等の包蔵地の調査が必要です。
 - 発掘資料の整理・分析が必要です。
 - 天然記念物保護の適正な各種事務手続きに努めます。
- ・博物館活動
 - 新しい収蔵庫の建設の必要があります。
 - 資料の安定的な保存環境を構築する必要があります。
 - とくに次世代を担う子どもたちへの博物館利用機会を増やす必要があります。
 - 文化財・博物館資料の重要性、存在意義を知る機会を提供する必要があります。

(推進目標と推進項目)

文化財保護活動・博物館活動推進目標	地域の文化財の保護・保存環境の整備 ～ふるさとの豊かな財産を活かそう～
-------------------	--

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとかから学び、地域と共に生きる	文化財の保存・資料収集・調査研究	●次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努めます。	埋蔵文化財保護の手続きについて、徐々に開発関係者に浸透してきた。手続きに迅速に対応するため、埋蔵文化財包蔵地の地番・地権者再確認、現状確認の作業は継続的に実施する必要がある。
		●北海道指定文化財シブノツナイ竪穴住居群、調査研究を継続的に進めてまいります。	調査は継続的に、計画的に進められた。令和3年度からは調査検討委員会の設置など、専門家の意見を取り入れながら調査の質の向上に努めていく。
		●収蔵している石器、土器類の分類整理をすすめ、湧別地区の先史文化の調査研究を行います。	発掘調査の出土資料を中心に整理及び調査研究を進めた。収蔵資料については、点検および台帳整理を進めている。
		●資料の整理分類をすすめて、特に重要な資料に関しては、データベース・目録等の作成を行い情報公開に努めます。	屯田関連の写真類、町の絵葉書、町の要覧などのデジタル化を進めた。一部は道立図書館のホームページに掲載し公開している。
		●日常生活への応用を資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用します。	履物の調査を進めて、体験活動への実践を進めた。開拓期の体験では、「わらじ」の着用体験を試行実施している。
		●安定的な資料の保存ができる収蔵庫の建設について検討をします。	旧芭露小学校の体育館を収蔵庫にするために準備を進めている。
	博物館展示	●先史の展示の充実に努めます。（郷土館）	毎年、発掘調査の速報展を実施しています。
		●次世代を担う子どもたちに理解しやすい展示づくりを行います。	展示数の増加、キャプションの更新を行い、見やすい展示づくりを進めています。
		●常設展示での収蔵展示を行い展示資料の増加をすすめます。	薄荷蓋の追加、展示室内の棚の増設等を行っている。
	博物館教育普及	●文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努めます。	学校授業等による遺跡見学の受入れ、遺跡調査報告会を実施した。
		●先史・開拓を知る体験学習を拡充します。	体験学習の内容を工夫し、開拓期、先史文化の理解を深めるようにした。
		●学校利用の促進に努めます。	体験学習のパンフレットの作成配布、新赴任教員への町の概要及び博物館の利用ガイドを配布し、学校利用の促進に努めた。
	●出張学習の内容充実に努めます。	日々の研究の成果を反映する内容づくりをしている。先史文化では、発掘調査の成果、開拓期では、屯田兵の装備品の研究成果を紹介した。	
	●学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充します。	町内のみならず、町外学校の体験等を受け入れて、教育力の向上に努めた。	
	●広報を活用し、博物館活動の周知に努めます。	毎月「湧く湧く」に文化財、博物館資料の情報を掲載している。	

第9節 スポーツ活動とスポーツ施設整備の

現状と課題・推進目標・推進項目

【スポーツ活動とスポーツ施設整備の現状と課題】

町民一人一人が心身ともに健康で充実した生活を営むためには、町民のだれもがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる、生涯スポーツ社会の実現を図ることが求められています。町民の健康や体力づくりに対する関心の高まりに伴い、多様なニーズに応じた各種スポーツ教室・講習会や大会の開催、合宿誘致、スポーツ施設の整備など、地域性を生かしたスポーツ活動の推進に努めてきました。

体育協会とスポーツ少年団本部の加盟団体は、町内スポーツ振興の原動力として自主的に活動しており、活動の支援を図ってきましたが、会員の高齢化や少子化による会員の減少や指導者不足等の課題を抱えています。また、子どもたちの体力低下やスポーツ離れにより、運動をしない子どもたちが増えてきている状況です。

今後もより多くの子どもたちにスポーツに接する様々な機会を提供し、体を動かす習慣を身につけさせることが求められています。

近年、青少年の体力低下や成人、高齢者の生活習慣病が増加しており、心身の健康保持増進のために運動習慣が形成されるよう、平成29年度より湧別総合体育館に新しいトレーニング機器を設置し、指定管理者事業として、インストラクターを試験的に配置したところ、町民の利用が増えてきております。今後もより多くの町民に継続的に利用してもらうためのニーズの把握や事業内容の充実が求められます。

スポーツ合宿誘致事業では、野球や柔道、合気道、陸上等の競技団体が町内で合宿し、町民との交流やスポーツへの意識高揚が図られていますが、更に合宿者が持つ高い技術をより多くの町民に還元し、交流を深める機会を提供し、教育的効果を高めるとともに、地域の活性化を含めた事業展開を図ることが求められます。

各スポーツ施設においては、民間のノウハウを活用したサービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度を導入しており、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るためには、指定管理者と連携したサービスの向上への取り組みが求められます。平成29年3月より町全体の公共施設を対象に「湧別町公共施設等総合管理計画」が策定されました。今後はこの計画を踏まえたスポーツ施設の管理運営と計画的な整備に努めながら施設の有効活用、利用率向上に向けた取り組みの推進が求められます。

＜今後の課題＞

- 町民がスポーツに親しむ機会提供と普及を図る必要があります。
- 指導者の発掘・養成や資質向上を図り、指導体制の充実に努める必要があります。
- 体育協会・スポーツ少年団などの関係団体の活動支援の充実に努める必要があります。
- スポーツインストラクター等を配置し、指導内容の充実や町民のニーズを踏まえたトレーニング機器等の整備を図る必要があります。
- スポーツ合宿の受け入れ体制の充実と合宿者が持つ高い技術を町民に還元する機会の提供を図る必要があります。
- 指定管理者の知見を活用しサービスの向上と適正な管理運営に努めるとともに「湧別町公共施設等総合管理計画」を踏まえたスポーツ施設の計画的な施設の改修等に努める必要があります。

(推進目標と推進項目)

スポーツ活動・ スポーツ施設の 推進目標	明日の元気は、きょうのスポーツから みんなで 体を動かし楽しもう
----------------------------	-------------------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	生涯スポーツの普及	●ライフステージに応じた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を定期的に提供し、健康や体づくりの増進とスポーツを通じた住民相互の交流の推進に努めます。	小学低学年に対するチャレンジスポーツスクールや小・中学生・一般に対するランニング教室、その他一般向けの各種教室やスポーツ大会のほか、高齢者でも参加できる健康運動教室など、各年代それぞれのライフステージに合った事業を行うことで、町民の健康・体力増進や運動を始めるきっかけづくりが図られている。
		●スポーツ合宿者による教室や講習会、町民とのふれあいや交流の機会の充実を努めます。	町内において合気道や柔道など各スポーツ合宿が行われ、合宿者が持つ高いレベルの技術に触れる機会を提供することにより、町民のスポーツへの意識高揚と交流が図られている。
		●スポーツに特化した楽しい一日を過ごす「町民皆スポーツの日」の創設を目指します。	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化が図られている。
	活動等の支援	●体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努めます。	自主的な活動を支援するための補助を適正に行うことができた。体育協会主催の五鹿山スキー場を駆け上がる「五鹿山マラソン」を開催しているが、教育委員会に委ねられており自主的な活動に至っていない。
		●スポーツ用具等を整備することにより、スポーツを始めたい方の支援に努めます。	町民の健康維持・増進と体力の向上を目的として、湧別総合体育館トレーニングルームにリース機器7台と購入機器7台の整備を図った。運動指導職員によるトレーニング機器を使った指導、運動相談、トレーニングメニューを提供することにより町民の健康づくりの意識が高まってきており、利用者の増加が図られている。
		●スポーツ推進委員等によるニュースポーツの研究・普及を図り、町民の健康増進に貢献します。	チャレンジスポーツスクールにおいて、「フロアボール」や「タグラグビー」など普段経験することのできないニュースポーツを経験させている。また、中湧別総合体育館の大規模改修工事に併せ、施設の特徴として、新たにバランス感覚や集中力などを鍛えられる「ボルダリング」と「スラックライン」の設備を設置し、町民が楽しみながら体力の増進が図られている。職員・スポーツ推進委員の研修において、既存のスポーツから新たなスポーツまで、今後の取り組みに活かすべき分野の研究に努めている。
		●「するスポーツ」に加え、「支えるスポーツ」として大会等の支援を行うボランティアの確保に努めます。	サロマ湖100kmウルトラマラソンにおいて、中・高校生、一般町民がボランティアとして参加することにより、「支えるスポーツ」としてボランティア意識の高揚が図られている。
	学習環境づくり	●町民のスポーツ活動を推進する指導者の育成や養成を図り、指導体制の充実を努めます。	スポーツ少年団やスポーツ団体における会員の減少や指導者が不足しており、横の繋がりもない状況である。今後、町内で活動している各団体やスポーツ推進委員等と連携しながら考えていかなければならない。
		●著名な外部講師等の招聘により、技術向上の習得に努めます。	各教室の開催にあたり、専門的な知識・技能を持つ外部指導者を積極的に招聘してきた。種目によっては世界的な技術を持つ方も招聘しており、スポーツに対する意欲の向上や高度な技術習得の支援に努めることができた。
		●スポーツインストラクター等による個々の体力に応じた運動メニューの作成を推進します。	月2回実施している一般町民を対象とした、「健康運動教室」やトレーニングルームにおいて器具等を使った個人指導、運動相談、運動メニューを提供することにより、町民の健康維持増進と体力の向上が図られている。
	連携・ネットワーク	●住民のニーズを踏まえながら利用しやすいスポーツ施設の計画的な改修等と適正な管理運営、利用実態に即した開館を目指します。	住民のニーズを踏まえ利用しやすい管理運営や定期的な保守点検・修繕等を通じて適正な維持管理が図られている。また、指定管理者と連携し、各施設ともに町民が快適に利用できるよう、利用者の意見・要望を聞き入れながら、施設の整備・補修等環境づくりに努めている。
		●健康福祉分野との連携を図り、運動やスポーツを取り入れた町民の健康づくり教室の開催に努めます。	福祉課の高齢者を対象とした介護予防教室「大筋クラブ」や健康子ども課の乳幼児を持つ保護者を対象とした「子育て支援センター事業」と連携し、運動指導職員が講師として指導することにより町民の健康づくりが図られている。
●体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等との連携を図り、町民みんなで楽しめる生涯スポーツの推進に努めます。		「町民300歳バレーボール大会」の開催にあたり自治会との連携や「五鹿山マラソン」の開催にあたっては、体育協会との連携が図られている。今後もネットワークを繋げることで、何ができるのかを考えていかなければならない。	

第10節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の 現状と課題・推進目標・推進項目

【生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の現状と課題】

生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。

また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。

現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館JRY、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。

しかし、昭和50年代から60年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を行っていますが、まだ整備が必要な施設があります。

施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館JRY、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。

また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成29年3月に策定されたことから、施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが提示されました。この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。

＜今後の課題＞

- 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。
- 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。
- 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。
- 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。

(推進目標と推進項目)

生涯学習の基盤整備推進目標	生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ、いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう
---------------	--

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	体学 制習 整推 備進	●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。	・社会教育関連事業の周知に努めるなど、これまでどおり関係機関や団体との連携強化に取り組んでいる。
		●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。	・団体が自主的に学習活動を行うための人的支援、場所の提供、金銭的支援のほか、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図っている。
	活施 用設 ・整 連備 携・	●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。	・指定管理施設については、指定管理者への指導助言を行っている。 ・指定管理施設とそれ以外の施設についても連携を強化し、効率的な活用を図るなど学習サービスの向上に努めている。
		●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。	
	学習 相 談 体 制 の 取 集 提 供 ・	●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。	・生涯学習情報紙「湧く湧く」発行にあたっては、わかりやすい紙面づくりに努めているほか、かわらばん、町ホームページ、遠軽地区なななんと情報を活用し情報提供をしている。
		●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実を努めます。	・多様化する学習ニーズに対応するため、相談体制の充実を努めている。
	用指 導者 の 活 動 支 援	●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。	・人材育成に向けて、活動の機会や情報の提供に努めているものの、計画的・組織的な指導者養成はできていない状況である。
		●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、サークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。	・生涯学習振興奨励事業の活用により、サークル等の自主的な学習活動に対する支援に努めている。
		●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。	・実行委員などボランティアとして事業に参画した方々については、地域活動のリーダーとして活躍の場の提供につながっている。
	連携 ワ ー ク ・ ネ ッ ト	●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。	・青少年健全育成町民会議などに参画するなど、連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めている。
	●生涯学習に関する情報を収集、データベース化し、ガイドブック等の発行を検討します。	・生涯学習に関する情報収集は行っているものの、ガイドブックの発行については進んでいない。	

【その他】 令和4年度各種研修会等の予定について

研修会等	月日	会場	内容	期待人数
遠紋地区社会教育委員研修会	9～11月	滝上町	遠紋地区委員対象の研修会	4人
管内社会教育振興セミナー	未定	小清水町	管内の委員対象の研修会	4人
北海道社会教育研究大会	10月	留萌管内	全道の委員対象の研修会	3人
北海道市町村社会教育委員長等研修会	7月	札幌市	全道の委員対象の研修会	2人
生涯学習活動実践交流セミナー	2月	札幌市	全道の職員中心の研修会 講演、優良事例発表、分科会	1人

会議	月日	会場	内容	出席
社会教育委員会議(定例会)	4、10、 12、3月	町内	事業計画策定、事業評価など	全員
中期計画策定会議	6～11月	町内	分野ごとに専門部会に振り分け 専門部会ごとに1～2回開催	全員
管内社会教育委員連絡協議会	5月中旬	網走市	総会	委員長